

自販機の歴史、ご存じですか 意外にも、生まれは紀元前のエジプトです

B.C.215年頃



産業機器ですが、ルーツは紀元前
世界最古の自販機は、エジプトの科学者ヘロンの著書に登場する「聖水自販機」。コインを投入すると、その重みで水が出てくる装置です。紀元前215年頃、寺院に置かれていたといわれています。

1800年代後半



発展は、産業革命後の英国
現在のような自販機の登場は、1800年代後半、産業革命後のイギリスでした。飲料、菓子、食品、チケット、タバコなどの自販機が実用化され、基本的な技術もこの頃に開発されました。

1904年



明治の半ばに、日本初の自販機
現存する日本最古の自販機は、発明家・俵谷高七が作った「自働郵便切手葉書売下機」です。切手と葉書の自販機でしたが、ポストも兼ねたアイデア製品でした。

《 日本での本格普及は1960年代前半から 》

1962年



キッカケは、米国飲料メーカーの進出
1962年(昭和37年)、アメリカの大手飲料メーカーが日本に本格進出。その際、自販機を置いて売上を伸ばしたことにより、日本でも自販機の本格的な普及が始まりました。

日本の場合、治安のよさも高普及の要因

1967年



100円硬貨の改鑄
硬貨の大量流通により、自販機がさらに使いやすいものに。乗車券自販機の導入が本格化

世界にない日本だけの技術です

1969年

日本初の「缶入りコーヒー」登場

1974年



1台でホット&コールド機、誕生
この頃から急速に普及した日本特有の自販機。とくに1台の自販機で温かい飲料と冷たい飲料が同時に販売できる「ホット&コールド缶飲料自販機」の開発が大きく貢献しています。

現在

世界一の売り上げ
日本の自販機全体での年間売上は約5兆円(内飲料は約2兆円)。台数は最も普及しているアメリカの約2/3ですが、年間売上は1兆円ほど上まわっています。

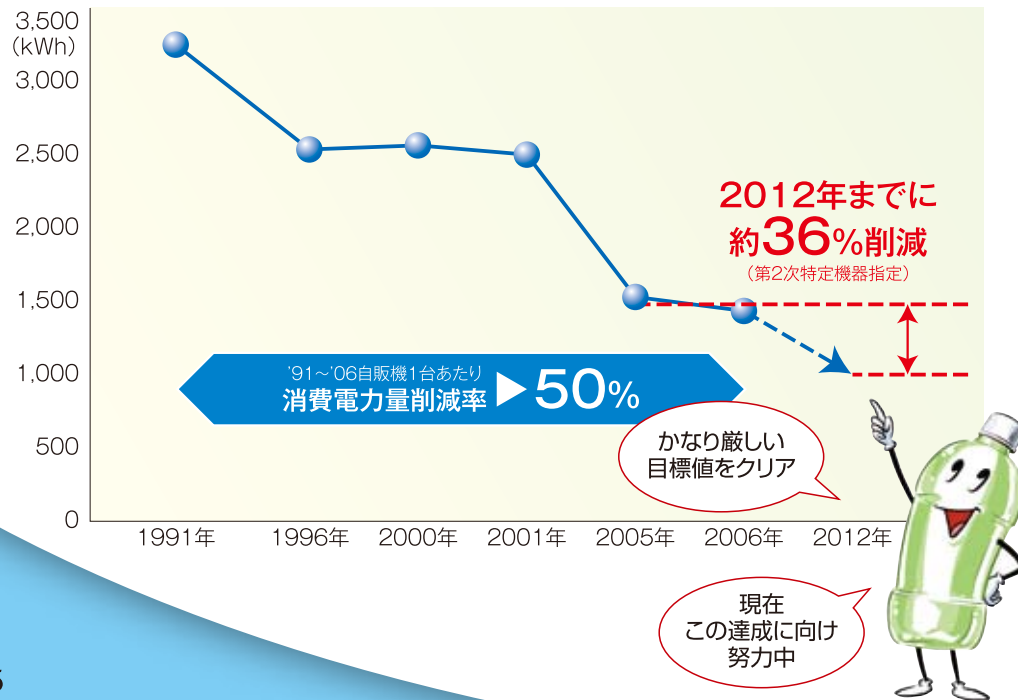
世界のテーマ「地球温暖化防止」 自販機もこの課題に熱心です

自販機の省電力化 かなりのハイペースで達成してきました

地球温暖化防止は、いますべての国、すべての企業、そして個人でも取り組まなければならない課題です。もちろん自販機業界でも、1997年の「京都議定書」以前から他の産業に先がけ消費電力量の削減に取り組んできました。まずは下の表をご覧ください。



■ 缶飲料自販機1台あたりの年間消費電力量グラフ



いまの自販機は 従来の50%以下の電力で動きます

2度の自主計画を通じ、10年間で消費電力量を30%削減。さらに省エネ法の「特定機器」に指定された2002年からは、一段と厳しい目標に取り組んできました。その結果、15年間で缶飲料自販機1台あたりの消費電力量は半減。でも、これはひとつの通過点にすぎません。



20年前に比べ約70%の省電力化 これがいまの達成目標です

2012年までにさらに約36%の削減(2005年比)。これが省エネ法で新たに義務づけられた目標です。これを達成すると、缶飲料自販機の場合、消費電力量を20年で約70%カットすることになります。高機能化だけでなく、省エネでも自販機先進国であるために。業界ではいま新しい省エネ技術の開発と導入を促進しています。

